

りっぷる

エスコープ大阪機関紙

第262号

11

24. .18

C o n t e n t s

表紙

・居場所を道具に
地域の子どもたちの応援を

P2

・誰もが自分らしく暮らすためには

P3

・活動報告 メイト企画「ウイナー作り
と添加物実験」/畑訪問/2024シャボ
ン玉フォーラム in ひょうご
・「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

P4

・W.Co紹介
「ワーカース・コレクティブ かぐや姫」
・理事会報告
・おたよりネット 編集後記

居場所を道具に 地域の子どもたちの応援を

大人だけではなく、地域や社会とつながりを持っていない子どもが増えています。エスコープ大阪の店舗「城山台Do」（堺市南区）で、フリースクールの経営をしながら、駄菓子屋さんとカフェ、遊び場が一体になったこどもの秘密基地「泉北BASE」を運営している「特定非営利法人 志塾フリースクール ラシーナ」理事長の田重田勝一郎さんにお話を伺いました。

（聞き手：理事長 吉田 正美）



特定非営利法人
志塾フリースクールラシーナ(富田林市)
理事長

たじゅうた

田重田勝一郎さん

支援が届いていない 子どもたちに向けて支援を

吉田 フリースクールの経営、そして地域の子どもたちの居場所づくりと事業を拡げられたきっかけは何でしょうか。

田重田 以前、システムエンジニアとして子ども向けのプログラミングクラブに関わった時に、子どもの教育に関わることをしたいと思い、仕事を辞めた後、フリースクールで働くことになりました。

フリースクールには、校区の子に会いたくないで少し離れた地域から通うお子さんが多く、近所のお子さんはほとんど来ないので、地域と隔絶されてしまうことが多いです。また、ラシーナを運営していると、不登校だけでなく、貧困や障がいなどがあってもサポートを受けていない子どもがいるという問題が見えてきました。そこで、不登校の子と地域の子がゆるくつながれる場所を作り、支援が届いていない子どもたちに向けて支援をしようとする業の幅を広げました。

居場所の中で見えてきたもの

吉田 泉北BASEにはたくさんさんの小学

生が集まっていますが、どのような居場所ですか。

田重田 泉北BASEは、子どもたちの居場所となるように駄菓子屋とフリースペース(遊び場)が一体になっており、学校が終わったら地域の小学生が集まります。泉北BASEに来る子どもたちと話をしていると、「兄弟の世話をしている学校に行けていない」とヤングケアラーであることがわかったり、ネグレクトを受けている子どもたちがいることがわかりました。これまでは、不登校や学習がしんどい、障がいがあるなど、保護者から相談される具体的な困りごとに対しての支援をしてきましたが、地域の子どもたちと関わることで隠れている深刻な課題が見えてきました。

フリースクールは全国で500カ所ほどありますが、学校に行けない子どもは30万人と言われており、3〜4%の子どものしかフリースクールにつながっていません。それは施設数が少ないのもありますが、有償であること、保護者が契約しないといけないということがフリースクールとつながらない原因となっています。学校に居場所のない子どもは家庭の事情があつて保護者が契約できない、支払いができないなどのケースも多いので、泉北BASEは、フリースペースは無料で開放、保護者の手続きも必要ありません。子どもが自由に遊びにすることができるようになっています。今の子どもたちはスマホやオンラインゲームが居場所になっていることが多いです。それもいいのですが、誰かと一緒にいる、つながることができることは大切です。

子どもを育ちを 地域の大人が応援する

吉田 今後、泉北BASEでどのような取り組みを考えていますか。

田重田 学校帰りに水だけ飲みこる子どもが、地域の子どもたちの居場所となっています。ぜひ、地域の大人たちがこの場所を使って、地域の子どもたちを応援していつてほしいです。泉北BASEにはカフェもあり、ランチを提供しています。大人に子どもたちの活動を支えてもらえるように、ランチは寄付金100円をプラスして提供しています。カフェのスタッフ3名のうち2名は地域の大人です。地域の子どもは地域の大人が育てられるように、地域の人に運営をバトンタッチしていきたいと思っています。

吉田 居場所にはいろんな課題解決につながる機能があることがわかりました。エスコープ大阪の居場所づくりの参考にしていきたいと思っています。

誰もが自分らしく暮らすためには

エスコープ大阪では、第6次中期計画（2018～2022年度）で居場所（地域拠点）づくりをすすめることを決め、実現に向けて活動してきました。現在、放課後等デイサービス廃業後の施設を活用した「みんなのリビングくるり」や南河内地域の「おしゃべりサロンたんび」、泉北ニュータウン地域の「やってますカフェ」などが動き出しました。

安心・安全に 過ごせる場所

これまでで日常生活における不安や悩みを相談できる相手や、世帯の状況の変化を周囲が気づき支えあうという人間関係が身近にあり、子育てや介護などで支援が必要な場合も、家族や地域が主にそれを担っていました。しかし、近年は独居が増え、同居家族がいても長時間労働などで不在であるなど、以前のように何かあった時は家族の中で支え合うことがとても難しい時代になりました。地域も近所付き合いが形式化し、身近で暮らしを見守ってきた民生委員のような人たちの世代交代も難しくなっています。

居心地が良いはずの家庭も、長時間労働や単身世帯の増加、貧困などによって、安心・安全に過ごせる場所となっていない人もいます。学校や職場などもなじめない、交友関係がこじれたなどで居場所とならない人もいます。そこで必要となるのが、第3の場所です。地域の中の居場所（地域拠点）が安心・安全な場所であり、頼れる人がいる場所となる場合もあります。



南河内地域の居場所

「多世代が集う、おしゃべりサロンたんび」

南河内地域理事
山田 恵子

2022年7月、南河内地域の福祉の集まりに参加した2名から「居場所があったらいいね」という話が出たのをきっかけに、生活クラブ大阪香里ブロックの居場所「よりみち」を見学し、どのような居場所にしようかを話し合い、翌年11月に「多世代が集う、おしゃべりサロンたんび」をスタートしました。

「たんび」に集まったみんなでどんなことをしたいか毎月話し合い、親子での参加もできるような「ピースプレスレット作り」や「簡単コースター作り」、また「スマホの使い方を教えてほしい」「家計やお金について話したい」「消費材を使って簡単時短調理をしたい」などの希望を取り入れた企画をおこないました。消費材のお菓子や飲み物に「これおいしいね! 今度買おう」と話が弾むこともあります。



現在4名の方がほぼ毎月参加してくださっています。組合員だけでなく員外の方も誘って来てくれるよう、ニュースで呼びかけています。「おしゃべりサロンたんび」が地域の人にとって「ほっとできる場所」であり、「困っていることを気軽にいせる場所」「学びもできる場所」「たすけあいの輪を広げる場所」になればいいなと思います。



気軽にのんびり

みんなのリビング「くるり」

くるり担当理事
吉田 正美

グリーン・ピース閉所後のスペースを活用し、2024年4月から本格的に稼働しました。今はボランティアの方たちを中心に週に2回（水・金曜日）開室しています。

「くるり」にはダイニングテーブルがあり、それを囲んで近隣の組合員や住民の方たちがお茶を飲んだり、持参した昼食を一緒に食べたり、おしゃべりや趣味をして過ごしています。「手仕事の日」はボランティアの方たちの得意技を活かし、折り紙や編み物などを一緒にしています。お子さんが遊べるような「キッズスペース」や、不要になったものを持ち寄って、必要なものを持って帰る「くるくるスペース」、ちょっとしたミーティングができるようなスペースもあります。

今後もっと開設日を増やし、多くの人に訪れてもらえるようにしていきます。ゆくゆくは、地域をひとつの家に見立てて道路を廊下に、みんなのリビングだけでなく、みんなのダイ



ニングやみんなのプレイルームなども作っていきたくと思っています。

地域力アップで 課題解決の一助

近年は「8050問題」やヤングケアラーなど、暮らしの中での課題が複雑化・複合化しています。「8050問題」の背景には子どものひきこもりの長期化・高齢化があるといわれており、親も高齢化して働けなくなり、生活に困窮したり、社会から孤立したりして起こります。ひきこもりの要因は精神疾患、発達障がいなどが要因になっている場合もあるといわれ、多様な問題が絡み合っています。分野別・専門的になった現在の福祉の制度では対応できず、従来の制度の枠にとどまらない包括的な支援が必要とされています。多世代の地域住民が行き交うプラットフォームのような地域の居場所（拠点）は、主体的に課題に向かい合う人が登場したり、集うことを通してお互いさまのたすけあいが可能になり、地域力をアップさせていくことができます。地域力は複雑化・複合化された暮らしの課題を解決する一助を担うことができるのではと考えます。そこに暮らす住民がその地域に合った居場所（地域拠点）づくりをすすめる、誰もが自分らしく安心して暮らせる地域づくりを実現していきたいと思っています。

※8050問題
80代の親が50代の子どもの生活を支えるために経済的にも精神的にも負担を負う社会。

南河内地域
メイト企画
「ウインナー作りと添加物実験」
 8月4日(日)
 堺市立美原文化会館
 料理室(堺市美原区)

南河内地域理事
 山田 恵子



家でも簡単にできる
「皮なしウインナー」を作りました!

ホイールとラップをはずし、フライパンでこんがり焼きます。

ゆでている間に、ウインナー

作りと添加物実験」をおこなった際、「ぜひ、親子でウインナーを作る企画をしたい、員外の方も参加してほしい」と声を上げた組合員がメイトとなり、一緒に企画を考えました。食育としてお子さんに食品添加物のことを知ってもらい、家でも簡単に作れるようなウインナーの調理方法を考えました。羊腸を使わず、「豚ウインナークラブ」の生豚ミンチと香辛料だけでできるということもあり、親子7組、大人が3名の総勢23名の参加となりました。日曜日開催だったため、お父さんと一緒に参加が多かったです。

生豚ミンチと香辛料をよくこね、端を切ったポリ袋に入れ、広げたラップにしぼり出して形を整え、ラップをクルクルと巻き両端をくくり、アルミホイールで2重に包みます。沸騰したお湯の中に入れ、蓋をして弱火で7分くらいゆでます。火が通ったら、アルミ

クラブの『ポークウインナー』と市販品を使って添加物実験(発色剤の亜硝酸ナトリウムが含まれているかどうか)をしました。百聞は一見に如かず、市販のウインナーは亜硝酸ナトリウムを使用しているのがテストターがピンク色に変わりました。包材の裏の表示も確認しました。

でき上がったウインナーは、プロのパン職人であるメイトの方の手作りパンにマヨネーズを塗り、炒めたキャベツと一緒にさみ、トマトケチャップを塗り、さあ、試食タイムです。自分で作ったウインナーを「おいしい!」と言ってほおばり、親子で楽しいひと時を過ごしました。感想やアンケートには、簡単にできたので家でもウインナーを作りたいという声が多くありました。

河内長野・大阪狭山地域
畑訪問
 9月26日(木)
 菜食ファーム
 大谷さんの畑
 (河内長野市)

河内長野・大阪狭山地域
 理事 沼田 典子

白ねぎの土寄せの体験
してきました

ました。「これから気温が下がると冬にはしっかりと大きく育ってくれるだろう」と話されていました。

「菜食ファーム」生産者の大谷さんの畑を訪問し、白ねぎの土寄せ体験と草抜きの手伝いをしてきました。白ねぎを選んだのは、以前畑訪問をした時に「一番手が掛かり苦労する野菜だ」という話を聞き、その大変さを少しでも共有したいと思ったからです。

「ダイレクトに気候の影響を受ける農業の難しさや苦労がわかりました。農業を辞める人もいるこの厳しい気候環境の中でがんばっている大谷さんたち生産者がモチベーションを維持して続けていけるような関わりが続けられるよう取り組んでいきたい」と、参加した組合員から感想がありました。

土寄せとは、畝の間を小型の耕運機で土を掘り、その土を畝で白ねぎにかけていく作業です。耕運機は、2018年の台風で被災した時に生協が菜食ファームに送った支援金で購入したもので、とても役立つしていると喜んでおられました。今年は猛暑と雨不足で青い部分の成長が遅く枯れぎみでしたが、土の中の白い部分はちゃんと根づいてい



生産者が丹精込めて栽培した『白菜セット』をぜひ登録してください。大谷さん自慢の太く甘い白ねぎや菜食ファームの生産者が作った白菜や春菊、ほうれん草、大根の入ったお鍋を味わってみてください。きつと生産者の存在を感じ、温かくて幸せな気分になれると思います。

水と鉱物が循環する惑星に住む私たち



けんで守れるもんあるんやで! 安全で豊かな環境を未来の子どもたちへ「をテーマに開催されました。近くの会場での開催ということもあり、理事6名と地域委員1名で参

「せっけん運動ネットワーク」の会員団体が受け入れ団体となつて毎年おこなわれる「シャボン玉フォーラム」が、今年「グリーンコープ生活協同組合ひょうご」が受け入れ団体となつて、「知つとお?」せっ

加しました。今回の基調講演は、京都大学教授で鉱物の研究者の奥地拓生先生による「水惑星の花崗岩のものがたり」。地

球に私たち生き物が住めるのは、水と空気があるからです。地球全体から見ると、水はほんの少しだそう。ほとんどが大陸(花崗岩)です。日本は4つのプレートの上にあるので、どこで地震が起きてもおかしくないという場所ですが、プレートが動くことで地下深くの含水鉱物が動き、ミネラルを含んだ水が作られ、生命が育まれたそうです。このような豊かな環境を未来に残していくためにも、合成洗剤ではなくせっけんを利用して水環境を守っていきたいと思います。

ラムの最後には、一昨年の山形から昨年の宮城、そして兵庫に引き継がれた手作り「ヘチマたわし」が大分にバトントタッチされました。また、フォーラムでは毎年、せっけん利用伸長率100%以上の団体の表彰があり、今年は生活クラブからは北海道・山形・都市生活(兵庫)の3単協が表彰されました。エスコープ大阪も、せっけんの良さをもっと伝え、利用者を増やしていきたいと思いました。

「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

vol.21 『おおぜいの私についての自助』

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

●協同組合のアイデンティティでは

ICA(国際協同組合同盟)により出されている協同組合の定義・価値・原則の中に「自助」という言葉が登場します。協同組合とは「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。そしてその価値は「協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする」としています。

●自助って?

辞書を調べてみると、「自助」は力量的にどうかという意味で、「自立」の従属的にどうか、「自律」の規範的にどうかとは違います。「自分を助ける力をもつ」とはということなのか考えてみます。以前、ある大学生協の専務理事の方がこのように仰っていました。大学生協は組合員が学生中心のため、学生に話をするときに必ず「自助」を説明するのだそうです。たとえば朝、親に起こしてもらっているようでは自分を助ける力を持っているとは言えないのではないかと。まずそこから考える必要があると。また、エスコープ大阪の過去の総代会で、方針骨

子に「共助」をすすめる、必要に応じて「公助」にも関わると記載していましたが、総代より「その前にまず『自助』があるべき」との意見がありました。まず自分を助ける力がなければ、共に助け合うことはできない。自治もできません。おおぜいの私が集まり、成したいことをすすめるために必要な「自助」を持つ必要があります。

●自助からはじまる「おおぜいの私」

組合員の皆さんと話をしていると、「自分たちの生協」「自治している」ことが感じられる言葉が多かったです。前提である「自助」の意識がしっかりとある表れだと思います。しかし残念ながら最近、ルールを無視したり、無責任な行動や言動を見聞きすることがあります。基本となる「自助」の意識が組合員の中で弱まっていると感じる時があります。誰もがいきいきと暮らしていくための社会づくりの前に、一緒に考えてみませんか。

第4回
理事会報告 <10月2日>

【8月度決算報告】

- 供給高 1億7,698万円(前年同月比107.4%)
※配達日数は1日多い
- 組合員数 18,624名(前月比△34名)
- 一人当たりの出資金 92,845円

【9月の放射能検査結果】

9月は連合消費材517検体、関西消費材7検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①生活クラブ滋賀への新DC建設分担金貸付について
- ②最低賃金変更に伴うエスコープ大阪サポートセンター非常勤の賃金改定
- ③河内長野支所電話受付業務委託契約の締結

【協議事項】

- ①2024年度上期活動のまとめ
- ②2024年度上期担い手づくり活動のまとめ
- ③改選期に向けて
- ④「エスコープまつり2024」
- ⑤「竜おうみ米」2025年産米の約束量
- ⑥「農事組合法人 上和田有機米生産組合」との取り組みについて
- ⑦単協米の2025年産米約束量
- ⑧2025年1月「グリーンシステム」新加入者向け統一取り組みについて
- ⑨「大阪渋谷麦酒」のクラフトビールの城山台Doでの取り扱いに向けて
- ⑩第7次エネルギー基本計画への対応方針
- ⑪「生活クラブでんき」ブランディンググッズの単協意見
- ⑫7月全地域取り組み「エコロ制度」のまとめ
- ⑬「ハグくみ」制度改定学習会のまとめ
- ⑭泉州地域「子育てひろば」について
- ⑮泉州地域「見守りサポーター」増員によるパートナー枠について
- ⑯2026年度以降の復興支援活動についての方向性
- ⑰「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」への対応
- ⑱「特定非営利活動法人 都市生活コミュニティセンター」への会員継続について

【報告承認事項】

- ①「(株)住吉川自然エネルギー発電」清算手続き完了と「水車を未来につなぐ会」への活動資金寄付について
- ②「生活クラブでんき」キャンペーン中間総括について

編集後記

今年は10月になっても真夏日になることがありましたが、寒さも少しずつ厳しくなり、ようやく冬の訪れを感じる頃となりました。気づけば今年も残りひと月となりました。今年こそは早めに大掃除を始め、気持ちよく新年を迎えたいと思います。(Y)



ワーカーズ・コレクティブ紹介

～誰もが安心して自分らしく暮らせる地域をめざして～

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を実現するには、地域で活動する団体との連帯は欠かせません。そこで、隔月で、エスコープ大阪関連のワーカーズ・コレクティブ(以下、ワーカーズ)に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

ワーカーズ・コレクティブ
かぐや姫

(河内長野市)



ワーカーズ・コレクティブかぐや姫の皆さん

誕生から30年経った今、

直接受け取りができない人も生協を利用できるようにとの思いで1994年10月に誕生しました。当初拠点としていた三日市のストックポイントの裏に竹やぶがあつたので「かぐや姫」と名付けました。個人配達(個配)が始まった頃は2000軒近くの組合員宅に配達していましたが、今は河内長野市や千早赤阪村など、1200軒ほどのお宅に配達しています。この30年で、配達先の組合員の状況も変わりました。高齢化し、施設に入られたり、お亡くなりになったり、一人暮らしになられた方も増えました。「認知症では？」と心配になる方もいます。退職され在宅する男性の受け取りも多くなりました。

目下の悩みはワーカー不足です。エスコープ大阪には7つの個配ワーカーズがありましたが、今ではかぐや姫だけになってしまいました。荷物を階段で5階まで運んだりするので、腰痛になったり、体力が伴わず、長く働くことが難しくなってきました。男性や若い方も一緒に働いてほしいのですが、収入や社会保険などの面が整っていないことなどが理由でなかなかメンバー加入につながりません。アルバイトとしてダブルワークをしている人もいます。

しんどいこともあるけれど、配達時に組合員の方たちとおしゃべりをするのは楽しいです。「これおいしいよ」「こーやって料理したらいいよ」とか、四季折々のお庭の花の話をしたり、犬と遊んだり、そういうコミュニケーションをとることができているから、個配の仕事は続けられるのです。今後は、地域委員会や他のワーカーズとも情報を密にし、安否確認を含めた高齢者対応コースや過疎地におけるお買い物トラックなど、地域に必要な事業を始められるよう検討をすすめたいと考えています。そのためにはワーカーをもっと増やさないとダメですね。古民家を借りてカフェもしたいなどと夢はいっぱいです。

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

259号1面「たすけあいの消費材 生活クラブの独自共済『ハグくみ』を伝え広めよう」を読んで

紙面モニターHさん

もうけが目的の保険とは違い、組合員同士のたすけあいの気持ちを形にしたものが『ハグくみ』なんだなということがわかりました。出産という喜ばしいことを、みんなでお祝いできることはとてもいいですね。保険ではできないことが共済ならできるので、応援したいと思いました。

キリトリ

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
262号(2024.11.18)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/